

研究委員会企画シンポジウム 2

教育心理学から考える“チーム学校”

【企画趣旨】

平成 27 年 12 月、中央教育審議会では「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」を取りまとめた。学習指導要領の改訂に当たっては、「何を教えるか」という知識の質や量の改善だけでなく、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりが重視されており、子どもたちが学校で習得した基礎的な知識・技能を実社会や実生活で活用することが求められている。そのためには、教員が、学校や子どもたちの実態を踏まえ、学習指導等に取り組むための指導体制の充実が求められている。加えて、生徒指導上の課題や特別支援教育など、学校が抱える課題は、複雑化・困難化する中、教職員が心理や福祉などの専門家や関係機関、地域と連携し、チームとして課題解決に取り組む体制の構築が必要である。

しかし、現場ではこのような「チーム学校」はうまく構築され、運営されているのだろうか。学校にチームが形成され、チームとして機能するためには何が必要なのだろうか。

本シンポジウムでは、チーム学校に求められる専門性に焦点を当て、チーム学校のモデルとなる実践や研究についての話題提供を行ってもらう。その中で、チーム学校に教育心理学が貢献できることを議論する。